

令和 7 年度

**福祉教育読本「ともに生きる」感想文集
福祉絵画コンクール受賞作品集**

ともだち

社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

はじめに

福祉にかかわる心は、大人になって急に芽生えるものではありません。幼児期からの様々な人との交流や体験を通して育まれるものと考えています。

宗像市社会福祉協議会では、地域共生社会の実現に向けた福祉教育の推進を一つの柱に掲げています。その事業の一つとして、毎年、福祉教育読本「ともに生きる」の感想文と福祉絵画を募集しており、優秀な作品に対して表彰を行うとともに、作品集「ともだち」を作成しています。

今年度も「ともに生きる」読後感想文コンクールには、市内小学校五年生にご応募いただきました。また、福祉絵画コンクールには、市内の保育園・幼稚園から高校生までを対象に作品を募集し、671名の参加がありました。これらの作品は、いずれも心温まる思いやりや、福祉の心にあふれる素晴らしいものでした。

この福祉事業の推進にあたりましては、先生方をはじめ、多くの関係者の方々にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

なお、この事業に用いた福祉教育読本にかかる経費などには、赤い羽根共同募金による配分金が充てられており、共同募金がこのようなところにも使われていることをお知らせしながら、皆さまの日頃からのご理解とご協力に厚く感謝申し上げます。

令和八年二月

宗像市社会福祉協議会 会長 吉田善仁

福祉教育読本「ともに生きる」感想文集 目次

☆	会長賞	思いやりの気持ち	赤間西小学校	長澤 佑里香	6
☆	金賞	あいさつでつながる心	河東西小学校	金田 琉菜	6
☆	金賞	視覚障害者	東郷小学校	倉 朱璃	7
☆	銀賞	「野球大会」を読んで	赤間西小学校	永田 琉偉	8
☆	銀賞	「ともに生きる」を読んで	東郷小学校	加納 実千花	9
☆	銀賞	「ともに生きる」を読んで	南郷小学校	永嶋 天俐	9
☆	銅賞	「不便だけど、不幸だとは思わない」を読んで	赤間西小学校	日高 美咲	10
☆	銅賞	「ずっとずっと私のおじいちゃん」を読んで	自由ヶ丘小学校	間崎 由乃	11
☆	銅賞	ボランティアの方々に伝えたい言葉	河東西小学校	定森 茜	12
☆	銅賞	守ろう身近なすてき	自由ヶ丘小学校	古賀 立陸	13
☆	優秀賞	シャンプーなどのデコボコの意味	吉武小学校	八田 芽結	13
☆	優秀賞	みんなといっしょ	赤間小学校	稲永 涼乃	14
☆	優秀賞	親切でかけた言葉	赤間小学校	柿原 叶芽	15
☆	優秀賞	「親切のつもりでも」を読んで	赤間小学校	小森 恵菜	15
☆	優秀賞	わたしのクラスのさっちゃん	赤間小学校	岩崎 由佳	16
☆	優秀賞	本当の親切	赤間小学校	藤川 慶	17

☆	優秀賞	「親切のつもりでも」	河東小学校	井口 貴博	17
☆	優秀賞	思いやりの人であふれる町	河東小学校	吉田 妃莉	18
☆	優秀賞	「知らなかったですむことじゃない」を読んで	河東小学校	漆谷 綾大	18
☆	優秀賞	「通勤中のできごとを読んで」	河東西小学校	矢野 日葵	19
☆	優秀賞	知的障害について	河東西小学校	加藤 すみれ	19
☆	優秀賞	ともに生きるを読んで	南郷小学校	小塚 桃加	20
☆	優秀賞	ともに生きるを読んで	東郷小学校	高木 優衣	20
☆	優秀賞	ともに生きる	日の里東小学校	今井 悠人	21
☆	優秀賞	ボランティア	日の里東小学校	中川 柚希	22
☆	優秀賞	「年をとるってどういうこと？」	日の里東小学校	秋月 海翔	23
☆	優秀賞	ともに生きるを読んで	日の里西小学校	川村 尚子	24
☆	優秀賞	「ともに生きる感想文」	日の里西小学校	作尾 來良々	24
☆	優秀賞	「どこの国にもユニバーサルデザイン」	自由ヶ丘小学校	井上 莉桜	25
☆	優秀賞	本当の「親切」	自由ヶ丘南小学校	山本 琴葉	26
☆	優秀賞	みんなにとってやさしい町	玄海小学校	古賀 みのり	27
☆	優秀賞	「ずっと好きだよ」	玄海東小学校	坪井 小桜	27
☆	優秀賞	高齢者を守る大島	大島学園	丸井 優花	28
☆	優秀賞	障がいのある人への気づかい	地島小学校	吉武 歩乃佳	29

福祉絵画コンクール受賞作品集 目次

金賞

☆ 幼児の部	みんななかよし	赤間くるみ幼稚園	加藤 虎丸	31
☆ 小学低学年の部	あそびに行つた帰り 元気にしててね	東郷小学校	三木 絢仁	31
☆ 小学高学年の部	手をさしのべて 自分に出来ること	東郷小学校	三木 勇樹	31
☆ 中学生の部	目の不自由な人が安全に歩けるように	中央中学校	吉武 音色	32

銀賞

☆ 幼児の部	じいじ ありがとう	赤間くるみ幼稚園	清水 桃花	32
☆ 幼児の部	思いやりの花を咲かせよう	日の里幼稚園	今村 恵麻	32
☆ 幼児の部	なかよし	赤間保育園	柿本 和親	33
☆ 幼児の部	かぞく	赤間くるみ幼稚園	添田 鈴	33
☆ 小学低学年の部	みんなが笑顔な世界	東郷小学校	川添 りり花	33
☆ 小学低学年の部	みんなと私の宝物	河東小学校	和田 奏音	34
☆ 小学高学年の部	あなたと共に	日の里西小学校	川村 尚子	34
☆ 小学高学年の部	ささえ合う世界	地島小学校	會澤 柑夏	34
☆ 中学生の部	笑顔の花	城山中学校	森 ほか	35
☆ 中学生の部	手をつたえるやさしさの言葉	城山中学校	中井 さら	35

銅賞

☆	幼児の部	おねえちゃんがないた よしよししょう えがおになれ!!	浄徳寺幼稚園	沖口 響	35
☆	幼児の部	ばあば ブルーベリーたくさんできたね! とってあげるよ	野ばら第二保育園	春木 凜	36
☆	幼児の部	思いやり	東郷信愛幼稚園	安部 風咲	36
☆	幼児の部	みんなおうちにだいしゅうごう	浄徳寺幼稚園	下條 乙葉	36
☆	幼児の部	ともに生きる	さくらんぼ保育園	登山 竜成	37
☆	幼児の部	みんななかよし	日の里幼稚園	岩佐 駿	37
☆	幼児の部	動かなくなった車を助けたよ	野ばら保育園	稲田 凧	37
☆	小学低学年の部	いいところいっぱい	自由ヶ丘小学校	脇田 眞帆	38
☆	小学低学年の部	たくさんのんでる うれしいな	赤間小学校	月足 匠道	38
☆	小学低学年の部	みんななかよく平和なせかい	河東西小学校	木原 新	38
☆	小学高学年の部	育てよう笑顔の花	日の里東小学校	成川 哲平	39
☆	小学高学年の部	支え合う社会	自由ヶ丘小学校	加藤 蒼士郎	39
☆	小学高学年の部	なかまとともに	河東西小学校	井本 陽心	39
☆	中学生の部	共に生きる	城山中学校	松尾 莓果	40
☆	中学生の部	気づいて守ろう	自由ヶ丘中学校	長島 麻桜	40
☆	中学生の部	一人の助けで救われる心	玄海中学校	刀根 春香	40
☆	中学生の部	違うつて、すてきじゃない?	日の里中学校	中玉利 柚里	41

会長賞

思いやりの気持ち

赤間西小学校 長澤 佑里香

今までわたしは、体が、不自由な人を気づかうことはあたり前と思っていました。しかしこの話に気づかされたことがあります。

この話は、ゆかりという女の子が五年生になって左目が悪いことに気づき、病院でちりようをすることから始まります。

体育祭のミニバスケットボールの練習に取り組んでいたところ、パスの練習のとき、右目では、ちゃんと見えていたのに、うっかりボールを、落としてしまいました。すると友達のとし子が「ゆかりちゃんだけはいいいよ。目が悪いから許してあげろ。」と言ったのです。その言葉にゆかりはきずつき、泣いてしまいます。たふんとし子は、悪気なく、ゆかりを思ってたのだと思います。

チームの中で一番に発言したということは、もしかしたら、一番ゆかりのことを大事に思い、心配していたのではないのでしょうか。しかし、結果的にゆかりを深くきずつけてしまったのです。わたしはとし子のやさしさが伝わり、ゆかりもきずつかないためにはどうしたらいいのかと思います、くやしくなりました。

時に、言葉は凶器にもなるし人を助けるものにもなります。とし子の言葉のわずかな差別を感じて、ゆかりはきずついたのでしょうか。わたしはとし子の「ゆかりちゃんだけはいいいよ。目が悪いから。」という言葉から「自分はとし子に仲間はずれにされている。」「ちりようをがんばっていることを、ないがしろにされた。」と思ったのではないかと思います。とし子がゆかりの気持ちになつて考え、自分が言ったことには、こういう思いがあつたんだと、ゆかりにくわしく伝えることができたなら、ゆかりもきずつかなかったのではな

いかなと思いました。

わたしはこれから、発言する前には、相手の気持ちになって考え、自分の心のおくの気づきにくい差別をなくそうと、思いました。

金賞

あいさつでつながる心

河東西小学校 金田 琉菜

「ピンポン、パンポン、ピー……」夜に鳴りひびくアラーム音。お盆休みに入った九州各地を、線状降水帯による大雨がおそいました。私の住む宗像、そして帰省中だった祖母の住む熊本も、大変大きな被害を受けました。

日本は地しんや台風、大雨などの自然災害が多い国です。もしも両親の居ない留守番中に何か起きたら、

だれをたよりにすればよいのでしょうか。今の時代は、親と子供だけの『かく家族』が多く、周りにたよれる人がいない事も多いです。

そんな時に大切になるのが、ご近所の人とのつながりだと私は思います。ご近所の人と日ごろからあいさつをしたり、おたがいに声をかけ合ったりしていると、信らい関係が生まれ、いざという時に心強いと思います。

今回の大雨でも私の家族は帰省中で宗像の自宅の様子が分からず不安でした。そんな時ご近所の人に連らくをとって、状況ようを教えてもらって安心出来ました。

この様に、今の時代もご近所付き合いが私は大切だと思います。ニュースでも災害のときに、ご近所さん同士で助け合ったおかげで無事にひなん出来たという話を聞いたことがあります。自分の家族だけではどうにもならないことも、地域の人と協力すればのりこえられると思

います。ふだんから顔見知りになつておけば、いざという時に声をかけやすくなります。あいさつやちよつとした会話は災害のときに、人を助ける大きな力につながるのだと思いました。

私は人見知りですが勇気を出してこれからご近所さんにあいさつをしていきます。その小さな積み重ねでも、心が近づく気がします。もし道で困っている人を見かけたら、私も声をかけられるようになりたいです。

「ともに生きる」とは、一人だけががんばるのではなく、周りを思いやり支え合ってくらすことだと思います。ご近所付き合いは、その第一歩です。私もこれから、ご近所さんとのつながりを大切にしながら、ともに生きる町づくりになしでも力になりたいです。

金賞

視覚障害者

東郷小学校 倉 朱璃

私は「ともに生きる」という本を読んで、「障害があるってどういうこと？」という章が一番心に残りました。その中でも「視覚障害」というものを考えてみる事にしました。

視覚障害者は盲導犬や白杖、点字ブロックを利用しているそうですが、歩きなれない場所では、ガイドさんや家族がついているそうです。私は視覚障害者は歩いている時、どのように歩いているのか知りたくなりました。私はどのようなしたら視覚障害者が歩いている時の気持ち分かるのか考えてみました。そして思いついたのが、目かくしして通学路を歩くということでした。

目かくしして通学路を歩く日の時、タオルを目かくしに使いました。はじめは、くつをはくところからで

した。くせでくつのかかどがへこんでいたので、すぐに分かりました。外に出たときはかさを白杖がわりに使いました。母がガイドをしましたが、最初は母の声だけをたよりにして、歩きました。そして、色々なものをさわりました。「三メートル先に道路があるよ。二十歩歩いたら右に曲がるよ。」など、具体的に説明してくれましたが、不安と、こわさでいっぱいでした。目が見えないので電柱にぶつかったり、だん差につまづいたりしました。

視覚障害者は歩いている時は不安やこわさがあるのだということが分かりました。視覚障害者ではなくても、聴覚障害者や、肢体不自由の方など困っている人がいたら、きんちようするかもしれないけれど、自分から声をかけてみようと思いました。もしも助けられないでそのまま歩いたら、私はずっとこうかいします。なので私は助けたいなと思いました。反対に私が困っていて、助け

もしてくれなかったら、とても悲しむからです。

銀賞

「野球大会」を読んで

赤間西小学校 永田 琉偉

ぼくは、ひろしみたいになんかできなくなるのは、いやだと思いました。野球を応えんすることは、だれでも出来るはずのことなのに、かん境のせいで出来なくなるのは、悲しいです。

「福祉」について、お母さんに聞いてみました。「福祉」とは、困っている人に特別なことをしてあげることでなく、みんなが同じように参加出来るかん境を作ることだと教えてくれました。そこで周りのお店や公園を見ました。駅や大きいし

設には、かん境が整っている場所がありました。でもぼくがよく行く公園や小さいお店には、しょう害者の人にとって必要な点字ブロックや車イス用トイレが整っていないことが分かりました。ぼくはしょう害を持っていても持っていない人も同じようにくらすことが出来るようになると思います。

そのために、小学五年生のぼくにも、出来そうなことは、バスや電車などで席をゆずったり困っている人に声をかけたりすることだと思えます。学校の中では、先生や友達に元氣にあいさつをしたり、困っている下級生に声をかけたりが出来ると思います。

これからは、今までよりも少しだけ周りを気にして行動したり、街のニュースを気にしたりして、気づいたことがあったら、みんなに伝えていきたいです。

銀賞

「ともに生きる」を読んで

東郷小学校 加納 実千花

私は、ともに生きるの障害があるってどういうこと？を読んで考えました。障害のある人はふだんの生活で何かしらの生きづらさを感じています。そのため子供たちには、特別支援学校や特別支援学級があります。そこでは障害のある人がしように来自立するための支援が行われています。

私のふた子の弟は発達障害で小学三年生の時から特別支援学級に通っています。こまり事はたくさんありますが特に苦手なのは、人とのコミュニケーションをとる事と大きな音です。だから放課後等デイサービスに通ったり、ほう間かんの先生に家へ来てもらったり、病院へ行ってお薬をもらっています。以前は、保育所等ほう間の先生に学校ま

で来てもらっていました。

そのおかげもあって以前はかんしゃくを起こしたり物を投げたりしていたけど、最近はそのような事がへりました。

私が百の力でできる事を弟は百五十の力を出さないとできないと弟が言ってたのを聞いた時、毎日学校へ行く弟を大変だな、でもすごいなと思いました。もし私が毎日百五十の力を出さないとイケなかったら、つかれて学校へ行きたくなくなってしまいます。周りの人に助けてもらいたくなります。

まだまだ弟には支援が必要です。お薬も必要です。さわがしい場所ではイヤーマフも必要です。必要な物は人より多いかもしれません、しように来に向けて毎日がんばっています。できる事はどんどんふえていきます。私はそれを応えんしながら、いっしょに遊んだりけんかしたりご飯を食べたりしたいです。

銀賞

「ともに生きる」を読んで

南郷小学校 永嶋 天俐

ぼくは、「ともに生きる」の「年をとるってどういうこと？」を読みました。この本には、おじいちゃんが今までのおじいちゃんじゃなくなっていくのが悲しかったけれど、本当は変わっていないんだ、ずっとずっと、わたしの大切なおじいちゃんという話がありました。

ぼくには、ひいおばあちゃんがいいますが、何度も同じ話をするひいおばあちゃんのことをちよつとめんどうに思うこともありました。だけど、この話を読んで、もつとひいおばあちゃんの話聞くようにしたいと思いました。

ぼくのおじいちゃんとおばあちゃんとはとなりに住んでいます。おじいちゃんはお米を作っています、収穫したお米をいつもぼくの

家に持ってきてくれます。雨の日には、送り迎えをしてくれたり、月に一回、本を一冊買ってくれたりします。おばあちゃんは、家の畑で野菜を育てています。トマトやきゅうりができると、いつもぼくの家を持ってきてくれます。夏休みにはお昼ご飯をたべさせてくれて、ぼくのことをとてもかわいがってくれています。今は、二人とても元気だけど、ぼくが大人になるころには、もう話の中のおじいちゃんみたいになっているかもしれないですね。だけど、してもらったことを忘れずに、田んぼの手伝いや庭の畑の手伝いをしたいと思いました。

この本を読んで、おじいちゃんやおばあちゃん、ひいおばあちゃんへの接し方を改めて考えることができました。今までできていなかったことを、今度はぼくが大きくなったら返していきたいと思います。

銅賞

「不便だけど、不幸だとは思わない」を読んで

赤間西小学校 日高 美咲

私は、「不便だけど、不幸だとは思わない」を読んで思ったことが2つあります。

まず、このお話は耳が聞こえない私が出てきます。その子は手話を知らないで、読話というもので生活していました。読話というのは、くちびるの動きや表情から話の内容を読み取ることです。これはとても大変なことです。しかし手話、指文字を知ったとき目の前がいつぱんに明るくなりました。「耳が聞こえないことは不便だけど、すばらしい友達に支えられて生きていることを思うとき、むしろ幸せと感ずるのです。」とあります。

この文章を読んで思ったこと、一つ目は手話をおぼえたいと思った

ことです。なぜなら一人でも多く手話をおぼえたと耳が聞こえない人でも安心してくれると思うからです。安心してくれると、耳が聞こえない人でも会話がふえたり、友達がふえたりすると思います。

みなさんも手話に目を向けてみたらどうでしょうか？そうすると未来が少し明るくなるのではないかと思います。私が思う明るい未来は人と支えあつて、こまっている人がいない未来です。しょう害があるから助けるのではなく、身近にこまっている人を支えあう未来がいいなと思います。

思ったこと二つ目は、人と支え合うことがとても大切だと思ったことです。なぜかというと、耳が聞こえない人はコミュニケーションはとれるけど、話すことができないので一人でこまっている人がいるのではないかと思ったからです。だから私はこまっている人がこの世界からいなくなるように手話をおぼ

えて助けたいと思いました。手話をみんながおぼえると、もつと明るい未来が見えるようになります。

銅賞

「ずっとずっと私のおじいちゃん」を読んで

自由ヶ丘小学校 間崎 由乃

私は「ずっとずっと、わたしのおじいちゃん」を読み、感想文を書きたいと思いました。その理由は、私もおばあちゃんと一緒に住んでいて、ともこさんと同じ環境だからです。最初にこの物語を読んだ時にはともこさんがかわいそうだなと思いました。なぜなら、大好きなおじいちゃんに名前を間違えられていたからです。だけど、もう一度読んだ時におじいちゃんの気持ちも分

かりました。おじいちゃんが自分でも少しずつおかしくなってきたということを実感していて苦しんでいるということが分かったからです。

この物語を読んでいる中で、私が一番に残ったのは、ともこさんの「大好きだったおじいちゃんのことを、嫌だと思ってしまう自分はずっとキライド」ということです。なぜなら、おじいちゃんのことを大好きと思う気持ちとおじいちゃんのことをがなんか嫌だと思ってしまう気持ちが合わさっているからです。私は、おばあちゃんのことを大好きだけど、ともこさんと同じような立場になったら大好きなおばあちゃんに対して、『嫌だな』という気持ちが生えてしまうかもしれないと不安になりました。私のおばあちゃんは、とても元気で私達の習い事の送り迎えやお買い物、図書館などに連れて行ってくれたり、一緒にお菓子作りをしたりしてくれます。

私が泣いている時には、私をなぐさめてくれたり、私たちのご飯の準備など色々なことをしてくれたりしています。朝は玄関まで見送ってくれます。私はそんなおばあちゃんが大好きです。でも、いつかは、この本のおじいちゃんのようになるかもしれません。おばあちゃんが泣いているのを見つけたときにはわたしがおばあちゃんにしてみらっていた時のようにやさしく寄り添っておばあちゃんが安心できるように環境にしていきたいです。私のおばあちゃんだけでなく、近所のお年よりも手助けできるように認知症や、老化について勉強して、何かあった時には、すぐに対応できる人間になりたいです。

銅賞

ボランテアの方々に伝えた言葉

河東西小学校 定森 茜

学校に行くと、毎日かわいくてすてきなお花がさいています。

私の学校には、お花の水やりや植えかえ、読み聞かせ、授業のお手伝いをしてくれるボランテアの方々がいます。私のお母さんもその一人です。ともに生きる「いつもの公園」もボランテアの方のお話だったので、すごく心に残りました。

「いつもの公園」は、お花のボランテア活動で、季節に合ったお花の植えかえをしているおばあさんとそれを知った男の子のお話でした。

その男の子は、おばあさんたちが毎日こうたいで、いつもの公園のお花を育ててくれていることを教えてもらいました。そして、おばあさ

んにさそってもらって、お手伝いすることになりました。お手伝いしてみると、たくさんのお花を運んだり、土の入ったふくろを運んだり、思ってたより重くて大変でした。男の子は、「こんな大変な作業をしていたんだ。」と思いました。そして、おばあさんたちの大変さがちよつぷり分かったと思いました。

このお話を読んで私は、大変でお金ももらえないし、暑かったり、寒かったり、いそがしかったりするのにどうして、ボランテアをしている人がいるんだろうと思いました。そこで、実際にボランテアをしている私のお母さんに話を聞いてみました。

お母さんは、こう言いました。「あなたがまだ赤ちゃんのころ、図書館でやっている絵本の読み聞かせボランテアの人たちに、赤ちゃんの成長のこと、遊び方、関わりあう方、ちよつとしたなやみを聞いてもらうだけで、心が軽くなったの。

私がこまっていた時に、助けてもらってすぐわれたの。だから私も世の中におん返ししようと思ったの。今は、子どもたちの笑顔で私も笑顔になれるからボランテアをしているよ。」

私はそんな事があつたなんて知らなかったのでびっくりしました。私だったら、自分のことじゃないことで時間を使うなんてむずかしいと思いました。なぜかという、ゆつくりとできないし、お昼ねできないし、遊べないし、宿題ができないからです。だから、ボランテアをしている方々はすごいと思います。「いつもの公園」の中でのおばあさんたちは、楽しそうにお花の植えかえをやっていました。お母さんも楽しそうにボランテアをやっています。

世の中でボランテアをしている方々は、みんなの知らない所で大変な作業をしていることを知りました。だから、私は、ボランテア

をしている方々をみつけたら、
「いつもありがとうございます」
と、伝えたいです。

銅賞

守ろう身近なすてき

自由ヶ丘小学校 古賀 立陸

身近なすてきを守りたい。ぼくは
そう思います。この物語は主人公の
たけしが、公園で出会ったおばあさ
んたちの公園の花の植えかえを手
伝う話です。たけしが、公園のベン
チにすわっていたおばあさんに話
しかけます。すると花の植えかえに
さそれれ次の日曜日に公園へ向か
うことにしました。おばあさんにさ
それれやる気が出たのだと思ひ
ます。

そして植えかえが終わった後、お
茶を飲みながら植えかえたばかり

の花を見つめているシーンはとて
もすがすがしい気持ちで読むこと
ができました。

ぼくは公園で友達とよく野球を
します。ふと思い返してみると、公
園の花だんの手入れをしているお
じいさんを見たことがありました。
しかし、ぼくはたけしのように話し
かけることはできませんでした。今
思うと、感謝の気持ちでいっぱい
になりました。

ぼくのおばあちゃんの家は、いつ
行ってもきれいです。庭にはたくさ
んの花が咲いています。球根を植え
るのを手伝ったこともあります。そ
の花が咲いているのを見るととて
もうれしい気持ちになりました。
色々な人が、「縁の下の力持ち」にな
っていることを改めて感じました。
次、公園で花だんの手入れをして
いるおじいさんを見たら感謝の気
持ちは伝えるとともに手入れを手
伝いたいです。そして、それを見た
周りの友達も同じ様に伝えたらそ

の輪がもっと広がり、身近なすてき
が守れると思います。

優秀賞

シャンプーなどのデコボコの
意味

吉武小学校 八田 芽結

私たちは「ともに生きる」を使っ
て、「障がい」について学習しました。
その中で私は、目に障がいのある人
の生活について深く考えました。

私は家でお風呂に入っていると
き、ひとつのことに気づきました。
それは、シャンプーやコンディショ
ナー、ボディソープの容器にいろい
ろなデコボコがあることです。シャ
ンプーには側面にデコボコがあり、
コンディショナーには何もなく、ボ

デイソープにはたてに線が入っていました。これは何なのかと気になり、調べてみることにしました。

インターネットで調べてみると、デコボコの理由は主に二種類ありました。

一つ目は、かみの毛を洗っているときに便利に使えるようにということです。かみの毛を洗っているときはあわが目に入らないように目を閉じるため、さわっただけでどの容器かわかるようにデコボコをつけているのだそうです。

そして二つ目の理由は、視覚障がい者への配りよです。目の不自由な方がシャンプー、コンディショナー、ボデイソープを間違えずに使ってくれるように、手でさわった感覚でわかるようにしているそうです。

私は、シャンプー、コンディショナー、ボデイソープの容器のデコボコについて調べてみて、いろんな人やいろんな場面での利便性を考えていることがわかり、すごいなと思

いました。そしてこんなに身近なものにも視覚障がい者への配りよがあり、みんなが使いやすいデザインがあるから、私たちの毎日の生活が豊かになっていくんだと思います。これからもこのような配りよがたくさんあふれ、だれもが生活しやすい世の中になることを願っています。

優秀賞

みんなといっしょ

赤間小学校 稲永 涼乃

私が「みんなといっしょ」というテーマにしたきっかけは、「親切のつもりでも」という話で左目の視力が落ちてしまつて、ミニ・バスケットボールでボールを落としてしまったゆかりちゃんとしこさんが

「ゆかりちゃんだけはいいい目が悪いから」と、とくべつあつかいをされて、いやな気持ちになっていて初めていやな気持ちになることを知ったことです。

「親切のつもりでも」を読んで思つたことは、すこし読んでいる私もいやな気持ちになりました。理由は、自分もされたらどんな気持ちになるか考えたとき最初にいやだなと思つたからです。

分かつたことは、親切のつもりでも相手の心をきずつけているのだなと分かりました。

知つたことは、言葉だけでもそれが人の心をきずつけてしまつていくから、言葉を使うときには、気をつけたほうが良いと知りました。

これから自分ができることは、言葉をえらんで、気をつけながら生活していこうと思いました。ほかにも「だけは」とか、一人だけみんなとちがうことをいつていたから自分もそんなことをいわないように気

をつけようと思いました。あと相手の気持ちになって考えようと思いました。

優秀賞

親切でかけた言葉

赤間小学校 柿原 叶芽

わたしは「親切のつもりでも」という話が心に残りました。

その理由はわたしだったからそれを親切と受け取っているからそう考える人もいるということにおどろいたからです。また親切のつもりで今まで言っていたことがもしかしたらその人をきずつけてしまっていることがあるのかもしれないということをしりました。そしてゆかりがとしこさんに対して、

「このわたしを特別あつかいし

ないで、ほかのみんなと同じようにあつかってよ。」

とゆかりが言いたいと思ったのは、としこさんが親切のつもりでかけたはずの、

「ゆかりちゃんだけは特別に許してあげる。」

といったことがゆかりになみだいでて目かはれるほどのゆかりの悲しみやくやしきでミニ・バスケットボールの練習をやめてしまいたくなるような気持ちになってしまったということまで、はってんしてしまったということをしりました。

このようにわたしは「相手にとつての本当の親切とは何か。」ということを考えて生活していきたいと思いました。

優秀賞

「親切のつもりでも」を読んで

赤間小学校 小森 恵菜

私は、「親切のつもりでも」を読んで、自分は親切にしたつもりでも、相手はいやな気持ちになっっている場合がある事が分かりました。

もし、私が主人公になった場合の事を考えてみました。もし私がなったら、返事すらできないと思います。そして、家に帰って、主人公のゆかりさんと同じように、

「この私を特別あつかいしないで、ほかのみんなと同じようにあつかってよ。」と、としこさんに言いたくなると思います。

そう言いたくなる理由は、本当は左目のせいじゃなくて、自分のただのミスなのに、すべて左目が悪いというように聞こえて悲しくなるからです。

なので、出かける時などに、障害

をもっている方がいたら、まずは、こまっっているかどうかを聞いて、たすける時には、障害者を、きずつける様な言葉を言わないように気を付けたいと思いました。

今回、「親切のつもりでも」を読んで、自分の親切と相手の親切は、いつも同じではないという事が分かりました。もし、これから先、私がとしこさんの立場になったら、相手をきずつける発言を言わないように気をつけながら話そうと思います。そのため、話す時は、相手の気持ちになって、今何をしてほしいのか、どう話しかけてほしいのか考えてから言おうと思いました。

優秀賞

わたしのクラスのさつちゃん

赤間小学校 岩崎 由佳

わたしは、「わたしのクラスのさつちゃん」を読んで、四年生のときに足の不自由な方の気持ちになつて車いすにのつて校内を一周したことを思い出しました。その時、たいけん中にとっても大変な事があることが分かりました。例えば、二年生のところにあるとびらのレールです。なにげなくおつていた場所が車いすだとこんなにくろうするんだと知りました。他にも、坂道だと、スピードをせいぎよすることがむずかしくてスピードが出すぎてしまうなどということもありました。「わたしのクラスのさつちゃん」を読んで、四年生のときのことを思い出してたしに同じクラスにもし不自由な子がいてその子が一年生や二年生にわる口を言われたら

わたしに言われたわけじゃなくて悲しくなるなと思いました。

そう思った理由は、いくらその子のことを知っていないからとはいえ、その子のそんざいや障がいのことをバカにして、わる口を言っているわけではないからです。さつちゃんは、

「もういいよ、いろいろ言われるのは慣れてるから。」

と言っていたけどそんな事をいうってことはいままでさつちゃんは、バカにされてわる口言われて一人ぼっちにされて、そんなこと今までさつちゃんがされてきたからこんな事を言ったのではないのかなと思います。

わたしがさつちゃんだったら、くやしくてなにも言い返せないと思ううからなみだでいっぱいだと思います。

「わたしのクラスのさつちゃん。」
を読んで改めて体が不自由な人の大変さを知ることができました。

優秀賞

本当の親切

赤間小学校 藤川 慶

ぼくは、「ともに生きる」を読んで、親切のつもりでも、人をきずつけてしまうということが分かりました。

ぼくは、今まで、障がいを持っている人はかわいそうだと思って特別やさしくしてあげたり、「障がいを持つているから。」という言葉が親切だと思っていたけれど、その一言で相手をいやな気持ちにさせてしまうことがあることが分かりました。そして、ふつうに、周りの人と同じようにせつしてあげることが、本当の親切なんだと気づきました。

ぼくには、耳が悪い友達がいて、その友達のことを前までは、「かわいそう」と思っていたけど今は、それも一つの個性で、周りの人と変わりなく、ふつうにせつしていききたい

なと思いました。

これから、ぼくは障がいのある方にもふつうにせつしていききたいし、この先障がいのある方に会ったら、仲良くなってみたいです。そして、このような人たちの使いやすいデザインのものがふえて、その人たちがくらしやすくなったらいいなと思いました。

このようなさべつは、無くなるといいなと思いました。

優秀賞

「親切のつもりでも」

河東小学校 井口 貴博

ぼくは、「親切のつもりでも」という本を読みました。この本を選んだのは、この本の題名に気持ちがひかれたからです。

この本は、ゆかりちゃんが主人公の物語です。ゆかりちゃんは、左目が悪く努力家な人です。ミニバスケットボールの三角パスの練習をいっしょにしていた友だちのひとり、とし子さんは、「ゆかりちゃんだけはいいよ。目が悪いからボールを落としても許してあげる。」と言い、許してあげます。

ぼくがこの本を読んで、いちばん心に残ったところは、ゆかりちゃんが、家に帰ってがまんしていたなみだが流れ出し、目かはれるほどないことです。

ぼくはこの部分を読んで、ゆかりちゃんはすごく悲しかったんだと思います。なぜなら、もしぼくがゆかりちゃんと同じような立場だったらと考えると、すごく悲しくて、くやしいだろうと思うからです。

ぼくはこの本から、本当は親切のつもりでも相手はいやな気持ちになることがあることを学びました。これから、相手の気持ちも考えて親切

をしています。と思います。

優秀賞

思いやりの人であふれる町

河東小学校 吉田 妃莉

わたしは、ユニバーサルデザインであふれる町になればいいと思います。理由は、二つあります。

一つ目は、安心安全に生活できる事です。硬貨は見なくても触って区別ができるようにそれぞれ大きさが違ったり、穴が開いていたりします。お札もそれぞれ大きさが違い、指で触って分かるように左右両方に印がつけられています。

二つ目は、背が低い子どもや高れい者の人でも使いやすいように、手すりや2段になっていたり、にぎりやすいように波型になっていたり

します。

これらのことから、わたしは、ユニバーサルデザインであふれる町になり、思いやりの人がたくさんいる町になればいいと思いました。

優秀賞

「知らなかったですむことじやない」を読んで

河東小学校 漆谷 綾大

ぼくは、「知らなかったですむことじやない」を読んで、人を家来のようにあつかっていると、けんかになったり大きな問題になるということが分かりました。

どうしてかという、最初は、「消しゴムかせよ。」とか「かばん持つてくれ。」などの大したことではないけど、命令する方がちょうしに乗

って「おんぶしろ。」や「答えを教えろ。」や野球の打順が回ってきた時も、「ピンチヒッターこうたい。」など言ってから、家来あつかいさせられる方もいやになってもんくを言ったら、している方も怒ってから、すごく大きなけんかになるからです。それに、答えを教える時にまちがっていたら、ただまちがえただけなのに何日も、もんくを言われたり、ずっと自分だけがせめられて言いかえすことがなくなるからです。

ぼくは、この話を読んでこれから、人を家来のようにあつかわずに、消しゴムをかしてもらうなど、たのむ感じにするといいと思いました。

優秀賞

「通勤中のできごとを読んで」

河東小学校 矢野 日葵

私は、「通勤中のできごと」という話を読みました。「通勤中のできごと」は生まれつき、全盲の視覚障がい者が、通勤中に点字ブロックを使わずに歩いていると、女性がやってきて、「あなたの歩くところはこっちよ。」と言いながら、点字ブロックの方へ引っぱっていくお話です。私は、四年生、五年生で障がいのことを、学んだので、もっと知りたいと思ってこの本を選びました。

私は、視覚障がい者の心の声の、「練習すれば、点字ブロックがなくても歩くことができる人もいることを知らなかったようです。確かに、点字ブロックは、視覚障がい者、特に私のように、白状を使って歩く者にとっては、あれば助かりますし、安心して歩くこともできます。でも、

私は、点字ブロックがない所でも白状を使って歩けますし、点字ブロックを使わないほうが近道だったり、同じ方向に歩く人の流れに乗ったほうがスムーズに歩くことができるときもあるのです。」これを見て私は、点字ブロックを使わずに歩くことはすごいと思いました。でも、女性は、親切でやったことは、視覚障がい者にとっては、こまっしてしまふことだと思いました。

私は、この話を読んで、女性みたいに、点字ブロックを歩いていなくても、こえをかけずに、ほかのできることを、さがして、障がいの方を手伝いをしていくように心がけていきたいと思いました。

優秀賞

知的障害について

河東西小学校 加藤 すみれ

この前夏休みの宿題に、福祉教育教材のともに生きるが出ていて、それを読んだ39から40ページの話に、気になる所がありました。それが、「今までいろんなところで仕事をしてきましたが、障がいのことを理解してもらえずコミュニケーションがとれないこともありました。」と、いう所です。私は、「なんで障害が理解されないんだろう」と思いました。そこで私は障害が理解されない理由について考えてみることにしました。

まず私が考えたのは、自分の近くに障害者が少ないから理解されにくいのではないかと思いました。理由は知的障害の子どもが生まれる確りつは2から3パーセントのため知的障害の人が周りにいない事

が多いからだと思います。次に知的障害に対する偏見があるからだと思いい、理由は知的障害の人は理解力がない、頭が悪い、言葉が通じないと思っている人も少しいるそうで障害には個人差があるため、この考えはまちがっていると思います。

私が障害について知って、理解を深めて色々な人に伝えて、もっと障害について知りたいと思いました。また、障害のある人でも働きやすい社会をつくりたいです。

優秀賞

ともに生きるを読んで

南郷小学校 小塚 桃加

私は、ともに生きるという福祉教育教材を読んで「ふくし」というものを知りました。

ふくしは「みんなで支え合うこと」「ボランティア活動すること」などもふくしの一つだそうです。みんなで支え合うことは、家族の中だけではなく、学校のみんなや生活の中でおこなっていることです。「ともに生きる」の中で「障害があるってどういうこと」が一番心にのこりました。なぜなら、「みんなで支え合うこと」につながるからです。「みんなで支え合うこと」は、第一章から第五章までつながっています。私は、障害者の方がたはえがおの人が多いと思います。なぜかというと、障害者の方がたは、ほぼみんなだれかが身の回りにいるからです。だから正面からお話をしたりして、なやみ事を話したり、友達をつくったりして友情やなにかしらの感情がでてくるんだと思いました。でも、もしかしたら、そばにだれもいなくてさみしい思いをしている人もいるかもしれません。私は、この福祉教育教材を読んでどうしたらこまっ

ている人の力になれるのかな、私は、なにをしたらいいのかなと考えました。だけど、私は考えるよりもしぜんと自分からこまっっている人の力になったり、よりそったりして、こまっっている人を助けたいです。そこで、みんなはどうやってここまで生きているのかを考えてみました。そしたら、みんな支えられて生きているからだとかくしました。だから、私は、私を支えてくれた人達に「ありがとう」と伝え、感謝の輪を今度は私が広げていきたいです。

優秀賞

ともに生きるを読んで

東郷小学校 高木 優衣

私はともに生きるを読んで、私達はいろいろな人に支えられて生活

しているんだと思いました。元気でいるか確かめる、なやみごとの相談に乗るなどの高齢者を支える取り組みを地域の人達がしていると思いました。高齢者の持つ知恵や技能を使って工芸品を作ったり寺子屋を開いたりしてすごいと思いました。私も寺子屋に行って友達やおじさん、おばさんといっしょに遊んだことがあります。なのでその人達にありがとうを伝えたいと思いました。

特別支援学校には、ろうかの上にモニターがあったり、体育の授業では、車いすに乗ったままボールを投げたり、とったりしてびっくりしました。障害には、目に障害がある人や知的障害、内部障害などのたくさん障害があることを初めて知ってびっくりしました。

体の不自由な人や子ども、高齢者のためにユニバーサルデザインやバリアフリーがあつてみんなが安心安全に生活できるものがたくさんあつていいと思いました。すべての人が利用しやすいようにエレベーターを設置する、耳が聞こえない人聞こえにくい人のためにテレビに手話通訳がある番組があつたり字幕を付ける、目が不自由な人のためのものに点字を付けるなどのバリアフリー、ユニバーサルデザインが町にたくさんあつていいと思いました。だからもっといろいろな場所にいろいろなユニバーサルデザイン、バリアフリーがあるといいと思いました。

みんながみんなのことを考えてボランティア活動をしていいと思いました。

私も募金をするなどの自分でできることをやってみたいと思いました。

私は、みんなが協力して考えてボランティア活動をしたり、特別支援学校では障害がある人のために私達の学校にはない物を置いたりしているいろんな人が支えあつていい

いと思いました。私も自分にできることからいろんなことをやってみたいです。

優秀賞

ともに生きる

日の里東小学校 今井 悠人

ぼくは、「ともに生きる」を読んで「おばあちゃんの笑顔」という作文が心に残った。理由は、まゆみさんが、重たいゴミ袋を運んでいたおばあさんに勇気を持って「手伝いましょうか」と声をかけていて、親切だなと思ったからだ。ぼくは、そういう場面で話しかける勇気があまりない。これまで、そういう場面にあったことがないからだ。しかし、これからもし困っている人に会ったら、今のぼくであれば、声をかける

ことができるかもしれない。

四年生の時、ぼくは下校中、散歩していた外国人とすれちがった。その時、「こんにちは！」とあいさつをした。すると「ハロー！」と言ってくれた。また「スペイン語、話せますか？」と聞かれたが、ぼくは、「話せません。」と答えた。

帰宅後、母に外国の方とのことを話した。ぼくは、(スペイン語が話せたら楽しいだろうな。いつか役に立ちそう。)と思い、母に相談してみると、スペイン人のだんなさんがいる友達に連絡をとってくれて、色々教えてもらうことができた。ぼくは、ノートに書いて覚え、今度また会えた時はスペイン語であいさつしようと思った。

2週間ほどたった頃、また会うことができた。ぼくは、「オラ！」とあいさつすることができた。その方は、少しおどろいた様子で、「オラ」と笑顔で返してくれた。ぼくは、とても嬉しい気持ちになり、勉強して

よかったと思った。

三年生の頃から、ぼくは、あいさつを自分からしよう！と意識するようになった。なぜなら、あいさつをすると自分も相手もいい気持ちになるからだ。五年生になった今、ぼくは、レストランの店員さんに、「ごちそうさまでした」、のーとのドライバーさんに「ありがとうございまして」と色々なあいさつができるようになった。「ともに生きる」に、ふくしは、「ふだんのくらしのしあわせ」とあった。ぼくは、あいさつもふだんのくらしの中にある幸せの一つだと思う。みんなが気持ちよくあいさつをすることで、幸せがどんどん広がっていくのではないか。

いつかもし困っている人に会った時は、ぼくは、あいさつをして声をかけたいと思う。

優秀賞

ボランティア

日の里東小学校 中川 柚希

わたしたちが登校している時、ボランティアのおじさん、おばさんがいつも見守ってくれています。その人達みたいになるために、私は「公民館のおじさんありがとう」を読み始めました。

私が一番心に残った場面は、「青パトに乗っている中村さんのような人がいるこの町が、ますます大好きになりました。」

の部分がすごく私の心にひびきました。中村さんのような、ボランティア活動をする人がいるから、子どもたちの安全が守れて、日の里ももっとよいところになっています。ボランティアの人にがんばってもらえるように私は感謝の気持ちこめ、「おはようございます。」と元気よくあいさつをしたいと思います。あいさつ

を元氣よく言う理由は、元氣よくあ
いさつを言うのと、周りの人もパワー
をもらええると思うからです。

わたしは、この物語を読んで、こ
れから、ボランティアの方がたにも
っと感じやしたいと思います。わた
しはこの物語で教えられたことが
あります。みんなを見守ってくれる
人がとてもすばらしいそんざいだ
とわかりました。私は心に決めたこ
とがあります。私はボランティア活
動をいつかしたいと思いました。

優秀賞

「年をとるってどういうこ
と？」

日の里東小学校 秋月 海翔

年をとるということとは、おじいさ
んおばあさんになるということだ

と、僕は思います。特にどう変わっ
てくるか考えて見ました。目が見え
にくくなったり、耳が聞こえにくく
なったり、おぼえるのが苦手になる
ところだと、僕は思います。

本「ともに生きる」を読んで僕が
一番印象に残っているのは、高齢者
を支える地域の取り組みの所です。
特に、一人暮らしや寝たきりの方の
所に、民生委員やシニアクラブ、社
会福祉協議会の人々が訪問し、相談に
のったり、元氣かどうかを見守る所
です。この取り組みで、高齢者やそ
の家族の人が安心して生活出来る
と思います。

僕の学校には、社会福祉協議会の
人が来たことがあります。その時に
は、高齢者のことを教えてくれまし
た。実際に車イスに乗ったり、目が
見えなくなった時の体けんをしま
した。その体けんをして、いつもは
すぐに出来ることでも、体をぶつけ
たり、とても体力をつかったり、と
ても大変だと、わかりました。

また、シニアクラブの人とも、交
流をしました。トランプやクイズを
しました。僕が知らない事をたくさ
ん知っていて、とても楽しかったで
す。

本を読んだり、体けんした事によ
り、僕が高齢者に対して何が出来る
かを考えました。物をかわりに運
ぶ・耳が聞こえない人には紙に書い
て話す・車イスの人には怖くないよ
うにゆっくり押す・声のかけ方では
「どこへ行きますか」と具体的に聞
く、という事です。

僕にも、おじいちゃんとおばあち
やんがいます。おじいちゃんは今ケ
ガをしてしまい、入院しています。
退院したら、僕ができる事を少しず
つやってみようと思います。少しで
もどれかの役に立てると、うれしい
です。

優秀賞

ともに生きるを読んで

日の里西小学校 川村 尚子

わたしは「ずっとずっと、わたしのおじいちゃん」を読んで、高齢者の方についてカッとなつても、やさしくよりそってあげることが大切だと思いました。

その理由は、時々、おじいちゃんが泣きながら「おれはどげんしたとかねえ：。」と何度もつぶやかれると心がしめつけられるように感じるからです。

わたしは、一学期の総合の授業で「高齢者について学ぼう」という学習をしました。その中で、認知症サポーター講座で聞いた話が一番印象に残っています。認知症は、いつも通っている道を迷ったり、コンビニなどでお金をはらうときのお金の計算がわからなくなったりするそうです。他にも、週に一回、ごみ

をだす日や分別の仕方がわからなかったり、忘れたりして、ふだん、今までの生活をしにくくなつてしまふことがあるそうです。

そこで、認知症でおちこんだりしてしまわないように、やさしくよりそってあげることが大切だと、改めて感じる事ができました。ごみをだす日がわからなかったら、一緒にだしたり、お金の計算や道に迷ったときも、やさしくたいおうしたりすることも大切だということを

知ることができました。改めて、高齢者の方についてカッとなつても、やさしくよりそってあげることが大切だと感じました。

これからは、こまっている高齢者がいたら、すかさずたすけてあげようと思います。

それと、祖母や祖父などにも、やさしくよりそってあげようとも思いました。

これから、家族の一員として、相手の気持ちを大切にできるよう

な心をもって家族をささえいき、まわりにいる高齢者に、「わたしはどげんしたとかねえ：。」と不安やなやみをなくすことができるように、すかさず安心してくらせる取り組みをしていきたいと思っています。

優秀賞

「ともに生きる感想文」

日の里西小学校 作尾 來良々

私は「ずっとずっとわたしのおじいちゃん」を読んで、相手の事を理解して行動することが大切だと私は思いました。

このずっとずっとわたしのおじいちゃんの話の内容は、ともこのおじいちゃんは、前のおじいちゃんとは少し様子がちがつて、大好きだったおじいちゃんのことをいやだと

思ってしまう自分のことがいやになってしまいます。ともこのことをお母さんの名前のさちこと呼ぶようになったり、図書の本なのに家の本とかんちがいすることが多くなっているんです。いやになって自分のベッドにもぐりこんでいるとお母さんが昔のおじいちゃんについて話しはじめました。話の中でおじいちゃんはそのわすれがひどくなつたと分かったけど本当はかわっていないとわたしは知りました。この話で分かったこととむき合つて次の朝はいやだった気持ちがつきれて元気に登校しました。

総合でともこのおじいちゃんのような人のこと、「にんち症」について学びました。そのにんち症について学んだ時に、出来ないことなどがおこると症状があつたし、ささえる、症状がゆるやかになると分かりました。なので、自分のいかりの気持ちをそのまま伝えるのではなく、やさしく伝えてできないことはフ

オローする、つまり「相手のことを理解して行動する」ということが大事だと、思いました。

この思いを大切に、私のおじいちゃんおばあちゃんがともこのおじいちゃんのような症状になったら気持ちを考えて、やさしく接したいです。

優秀賞

「どこの国にもユニバーサルデザイン」

自由ヶ丘小学校 井上 莉桜

私は、みんなが不自由なく暮らすことは大切だと思う。この本はすべての人が使いやすいように考えられたユニバーサルデザインの説明や種類が書いてある。

まず、ユニバーサルデザインには、

目の不自由な人のための点字、車椅子やベビーカー、足の不自由な人のためのスロープなどがある。いわゆる何かをプラスすることで、不自由なく暮らせる人のためにあるものだ。

もちろんこれは、外国人にも当てはまる。私は去年、韓国に家族といつた。韓国に行く前に少しか韓国語の勉強をした。しかし、あまり使わなかった。わけは、韓国語の下に日本語が書いてあったからだ。使ったのは、「おはよう」や「こんにち」ぐらいだ。これは、日本で外国人向けに言葉が書かれているのと同じように、韓国では日本人に向けて日本語がたくさんの場所に使われていたのだ、ほとんど不自由なく過ごせた。

また、今年の夏休みには家族とタイに行った。タイで、日本でも見たことのあるマークが目についた。それは、非常口のマークだ。そこに書いている言葉は分からなかったが、

色は緑と白だった。そして、調べてみると非常口のマークもユニバーサルデザインだということがわかった。非常口のマークはなぜユニバーサルデザインなのかというと、どの国の人が見ても「非常口」ということがすぐわかるからだ。命に関わるマークだからこそ世界共通にしているのかもしれないと思った。皆さんは、「ユニバーサルデザイン」を気にしたことがあるだろうか。海外ではなく、日本にも多くの種類のユニバーサルデザインがある。私もこれからは、多くの人を支えるユニバーサルデザインについて詳しく調べていきたい。

優秀賞

本当の「親切」

自由ヶ丘南小学校 山本 琴葉

私は、「親切のつもりでも」というページを読みました。そこでは、市内体育祭のミニ・バスケットボールの練習をする、ゆかりとし子のお話です。

ゆかりは、五年生になって、左目が悪いことに気づきました。「いくら左目が悪くても右目は見える。」と言い、決してくじけませんでした。ところが、三角パスの練習をしていたとき、ついボールを落としてしまいました。でも、友達のひとり、とし子さんが、「ゆかりちゃんだけはいいいよ。目が悪いからボールを落としても許してあげる。」と言いました。

私は、ゆかりが左目が悪いことに気づいても、右目は見えるからと言って決してくじけなかったのがす

ごいと思いました。私だったら、左目が見えないのがこわくて、くじけてしまうかもしれません。必死でがんばっているのに、とし子さんのあの言葉だと、「親切」ではなく、「差別」だと思ってしまうです。

この本を読んで、親切のつもりでかけた言葉でも、相手を傷つけてしまうことがあることを知りました。

また、しょうがいをもっているからといって、人に「かわいそう」や、「○○だから大丈夫」などと言うことは、だめだということ、「親切のつもりでも」でもあった、「親切のつもりでも相手を傷つけてしまうことがあること」が分かりました。

私はバスケットボールをしていて、バスケットボールは、けがが多いスポーツなので、相手に、「差別」のような言葉を言わないようにしようと思いました。また、今日、学んだこと、思ったことは、一生わすれないようにしようと、心から思いました。

優秀賞

みんなにとつてやさしい町

玄海小学校 古賀 みのり

私は国語の時間でユニバーサルデザインについて学習しました。ユニバーサルデザインはみんなが使いやすい物の事でノンステップバスや自動ドア、スロープなどがあります。その中で私が調べたのはノンステップバスです。

調べて分かったのは車いすの人にも使いやすいということです。ノンステップバスはバスに乗るためのスロープもあり、車内には、車いすがすべりにくいようなゆかにしています。そして子どもにも使いやすいように、停車するためのボタンは手すりの低い位置に設置しています。

でも、玄海を見てみるとバス停はたくさんあってバスは来ますが、ノンステップバスはあまり見かけま

せん。私は玄海は車いすや高れい者にとつては少し不便なのかなと思います。なのでもう少しノンステップバスを増やして、車いすの人にも住みやすい玄海にしていきたいです。

そして私は玄海をやさしいまちにしていきたいです。

優秀賞

「ずっと好きだよ」

玄海東小学校 坪井 小桜

わたしは、これから周りにいる高齢者に対して接していく中で、いろいろな高齢者や体の不自由な人によりそって関わっていききたいです。なぜなら、高齢者疑似体験や道徳の学習を通して、実際に体験できたからです。

高齢者体験をして高齢者の気持

ちがわかりました。わたしたちが毎日当たり前にしていることがとても大変でした。例えば、こしを曲げるストラップをつけたあと5分くらいで、すぐにいすに座りたくなりました。また、手袋をつけてビニール袋を開けるのにも3分くらいかかりました。さらに、体験中ずっとこしが痛かったので、つえを使ったら楽になると思ったけれど、少ししか楽になりませんでした。また、字を読むうとしたけど「全然読めない。」と思いました。大きな字だけ読むことができました。小さい文字は、読めませんでした。体は重いし、目もあまり見えない、耳も聞こえづらかったです。高齢者は毎日このような生活をしているのだと思いました。

道徳の学習で、「ずっとずっと私のおじいちゃん」を読みました。女の子は、大好きなおじいちゃんを、恥ずかしい気持ちになつて嫌になつてしまいました。それは、おじ

いちゃんのせいではなく、認知症によるものでした。認知症とは、今まで覚えていたことを忘れたりすることです。だからこれからおじいちゃんやおばあちゃんが困っていたら、「どうされましたか？」と、優しく声をかけたいです。おじいちゃんが認知症になってしまうと、悲しくて、おじいちゃんも家族のみんなも自分のことが悲しくなるかもしれません。でも、誰でも聞こえる声でわかりやすくお話をしたら相手も嬉しくなると思います。

高齢者体験や学習を通して、今まで気づかなかったことに気づくことができました。

自動の手洗い場や設備は、高齢者やけがをしている人にとっても便利で使いやすい物だと思います。わたしたちは気づかないうちに高齢者用の便利なものをいろいろな場所で見つけているかもしれません。だから私は、これから公共の設備を大切にしていきたいです。そして、高齢

者が困っていたら優しく声をかけて、助けたり手伝ったりしていきたいです。

優秀賞

高齢者を守る大島

大島学園 丸井 優花

私は、学校で中学生が夏休みに大島体そうをしていることを知りました。大島の高齢者の人たちは、毎朝集まってラジオ体そうをしています。中学生は島の高齢者に元氣になつてもらいたいと思って「大島体そう」というものを作りました。それを取り入れてもらうために朝早く起きて、一緒に参加し、教えたそうです。私はそれを知って、中学生は大島の人達のために、高齢者のために動いていることがすごいなと思いました。

また、大島では、敬老会があつて、去年私はダンスを踊りました。ダンスを踊って、高齢者の方とても楽しそうでした。自分も、敬老会に参加していた人にも楽しいと思つてもらえるダンスができて、嬉しかったです。ほかに中学生が大島体そうをしたり、地域の人がげきをしたりしていました。今年の敬老会でも高齢者の方を席までサポートしたり、楽しめるようにダンスを踊つたりしたいです。

防災訓練では高齢者の方と一緒に訓練をしました。実際に津波が来たときにひなんする時の道のりや防災バックに入れる物も一緒に確にんしました。

大島は人数が少ないので、もし何かあった時に協力できるようにしていく必要があります。大島の方には元氣でいてもらいたいです。なので私は長生きしてもらええるための手伝いを今後もしていきたいと思っています。

優秀賞

障がいのある人への気づかい

地島小学校 吉武 歩乃佳

わたしが、「わたしの妹」を読んで、障がいのある人を、わかってあげられない人もいることを知ることができました。どうしてかというと、「わたしの妹」の中に、「妹のことで、わたしはクラスの人たちからいやなことを言われたこともありまして。」と書いてあったからです。妹のことを言われ、「わたし」がかわいそうだと思いました。

わたしは、一学期の国語の学習で、ユニバーサルデザインのことにについて調べました。わたしが調べたのは、音声ガイドについてです。わたしは、キャナルシティの音声ガイドについて調べました。キャナルシティの音声案内について調べた理由は、前に家族でキャナルシティに行った時、トイレで音声案内が流れて

いたからです。「正面は多目的トイレ、左は女性専用トイレ、右は男性用トイレです。」という案内が流れていました。あまりキャナルシティのことを知らなかったもので、便利でした。そこで分かったことは、障がいのある人にも、わたしたちにも、便利なものだということです。ユニバーサルデザインが世の中に広がることで、世の中の人が便利にくらすことができると思いました。

わたしはテレビのドキュメンタリーで、特別支援学校のことを見たことがあります。その学校には、いたるところに点字があったり、車いすがたくさんありました。わたしは、点字も車いすもありました。わたしは、なかったもので、びっくりしました。そこで授業を受けている子達は、目が見えにくかったり、耳が聞こえづらかったりして、体の不自由な子がたくさんいました。授業中は、先生が、口を大きくあけてお話したり、話のほとんどを黒板にうつしたり

していました。子どもたちは、熱心に先生の話していることを頭に入れようとしていました。小学生から手話をしている子もいて、すごいなと思いました。

「わたしの妹」では、近くの学校と交流することが書かれています。その学校の運動会で、フォークダンスを妹とおどったよし子さんは、やさしいなと思いました。手紙が、障がいのある人への気づかいにつながっていると思いました。

わたしは、世の中が、障がいのある人のために、気づかったり、助けたりできるようになりたいと思いました。これからは、意識して生活していきたいと思います。

令和 7 年度

福祉絵画コンクール 受賞作品集

社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

金賞



幼児の部
「みんななかよし」
赤間くるみ幼稚園
加藤 虎丸

金賞



小学低学年の部
「あそびに行った帰り
元気にしててね」
東郷小学校
三木 絢仁

金賞



小学高学年の部
「手をさしのべて
自分に出来ること」
東郷小学校
三木 勇樹

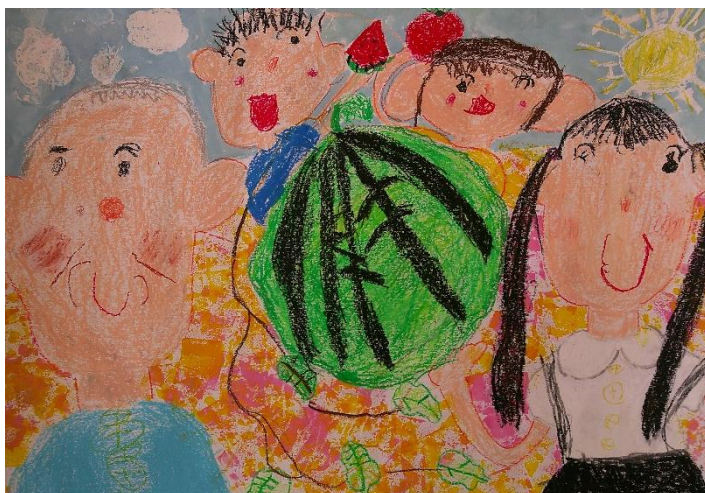
金賞



中学生の部
「目の不自由な人が
安全に歩けるように」

中央中学校
吉武 音色

銀賞



幼児の部
「じいじ ありがとう」
赤間くるみ幼稚園
清水 桃花

銀賞



幼児の部
「思いやりの花をさかせよう」
日の里幼稚園
今村 恵麻

銀賞



幼児の部
「なかよし」
赤間保育園
柿本 和親

銀賞



幼児の部
「かぞく」
赤間くるみ幼稚園
添田 鈴

銀賞



小学低学年の部
「みんなが笑顔な世界」
東郷小学校
川添 りり花

銀賞



小学低学年の部
「みんなと私の宝物」
河東小学校
和田 奏音

銀賞



小学高学年の部
「あなたと共に」
日の里西小学校
川村 尚子

銀賞



小学高学年の部
「ささえ合う世界」
地島小学校
會澤 柑夏

銀賞



中学生の部
「笑顔の花」
城山中学校
森 ほのか

銀賞



中学生の部
「手でつたえる
やさしさの言葉」
城山中学校
中井 さら

銅賞



幼児の部
「おねえちゃんがないた
よしよししよう
えがおになれ!!」
浄徳寺幼稚園
沖口 響

銅賞



幼児の部
「ばあば ブルーベリー
たくさんできたね！
とってあげるよ」
野ばら第二保育園
春木 凜

銅賞



幼児の部
「思いやり」
東郷信愛幼稚園
安部 風咲

銅賞



幼児の部
「みんなおうちにだいしゅうごう」
浄徳寺幼稚園
下條 乙葉

銅賞



幼児の部
「ともに生きる」
さくらんぼ保育園
登山 竜成

銅賞



幼児の部
「みんななかよし」
日の里幼稚園
岩佐 駿

銅賞



幼児の部
「動かなくなった車を
助けたよ」
野ばら保育園
稲田 風

銅賞



小学低学年の部
「いいところ いっぱい」
自由ヶ丘小学校
脇田 真帆

銅賞



小学低学年の部
「たくさんのもんでる うれしいな」
赤間小学校
月足 匠道

銅賞



小学低学年の部
「みんななかよく
平和なせかい」
河東西小学校
木原 新

銅賞



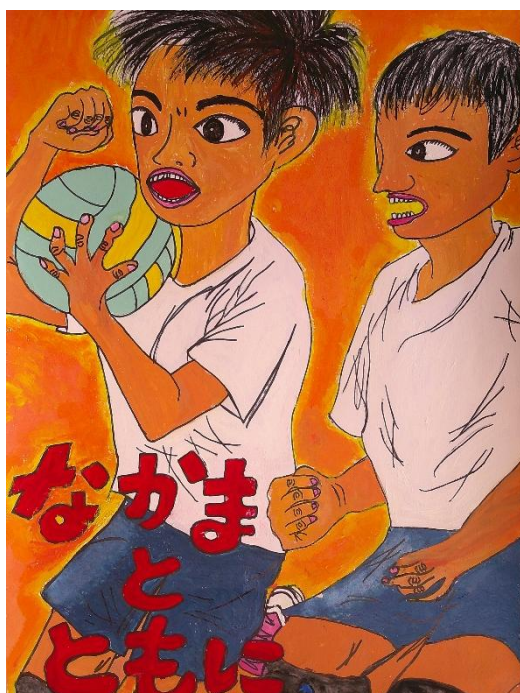
小学高学年の部
「育てよう笑顔の花」
日の里東小学校
成川 哲平

銅賞



小学高学年の部
「支え合う社会」
自由ヶ丘小学校
加藤 蒼士郎

銅賞



小学高学年の部
「なかまとともに」
河東西小学校
井本 陽心

銅賞



中学生の部
「共に生きる」
城山中学校
松尾 莓果

銅賞



中学生の部
「気づいて守ろう」
自由ヶ丘中学校
長島 麻桜

銅賞



中学生の部
「一人の助けで救われる心」
玄海中学校
刀根 春香

銅賞



中学生の部

「違うって、すてきじゃない？」

日の里中学校

中玉利 柚里

**令和7年度
福祉教育読本「ともに生きる」感想文集
福祉絵画コンクール受賞作品集**

発行年月 / 令和8年2月

作成・発行者 / 社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

福岡県宗像市久原 180 番地 メイトム宗像内

Tel : 0940-37-1300 Fax : 0940-37-1393

E-mail : info@syakyo.munakata.com

U R L : <http://syakyo.munakata.com>